

謝辞

本研究は、「牧之原みんなの暮らしを学ぶ会(以降、学ぶ会)」の協力を得て行われました。「学ぶ会」は子育て、環境、健康、福祉など多分野にわたり、地域の暮らしに関することを学ぶ会で、地域で様々な活動をしている市民の方々が参加しています。「学ぶ会」の皆さんは、新型コロナウイルス感染症に見舞われた地域社会の当事者として、自らの暮らしの知恵を再発見するために、この研究に協力していただきました。



研究の方法

本研究は、牧之原の市民の皆さんの声を集めるために、「学ぶ会」の協力で対面でのワークショップと、SNSや紙ベースのアンケートを実施しました。ワークショップとアンケートから得られた市民のさまざまな意見は、以下の13のテーマに整理されました。

- 1 変わっていきこう
- 2 未来に希望を持とう
- 3 正しい情報が欲しい
- 4 付和雷同してしまった
- 5 ストレスや不安が大きかった
- 6 みんなが心配
- 7 差別、誹謗中傷はショック
- 8 コミュニケーションを工夫しよう
- 9 困っている人がいる
- 10 外出しよう
- 11 医療関係者やがんばっている皆さんありがとう
- 12 自然が大事
- 13 田舎っていいよね

これらのテーマごとに意見を要約し、この冊子で報告する「市民の声」としました。

アンケート

アンケートでは、まず「新型コロナウイルス感染症が始まって、考えたこと、したこと、感じたこと(身近なこと、嫌だったこと、良かったことなど)」、次に「前の問いを踏まえて、この地域の暮らしや私たちのふるまい方が『もっとこうだったらよかったのになあ』と思うこと」、そして「前の二つの問いを踏まえて、これから、やってみよう、行動してみよう(『やってみっかやあ〜』)と思うこと」を尋ね、さらに「そのほか、何でも書きたいことがあればお書きください」と質問しました。SNSで29名、紙で8名の方から、回答が寄せられました。

ワークショップ

新型コロナウイルス感染症の流行に出会って感じたことを話してみよう



2020年11月23日(月)に、牧之原市文化センター(3階大会議室)で、12名の市民の皆さんの参加を得て、ワークショップを実施しました。第一部では「新型コロナウイルス感染症の流行に出会って感じたことを話してみよう」を車座になって一人一人話しました。

第二部では、3つのグループに分かれ、まず、「この地域での暮らしで『もっとこうだったらよかったのになあ』と思うことは？」について、次に締めとして「ひとまず、やってみること、行動すること(ちいっと、やってみっかやあ)」について意見を出し合いました。

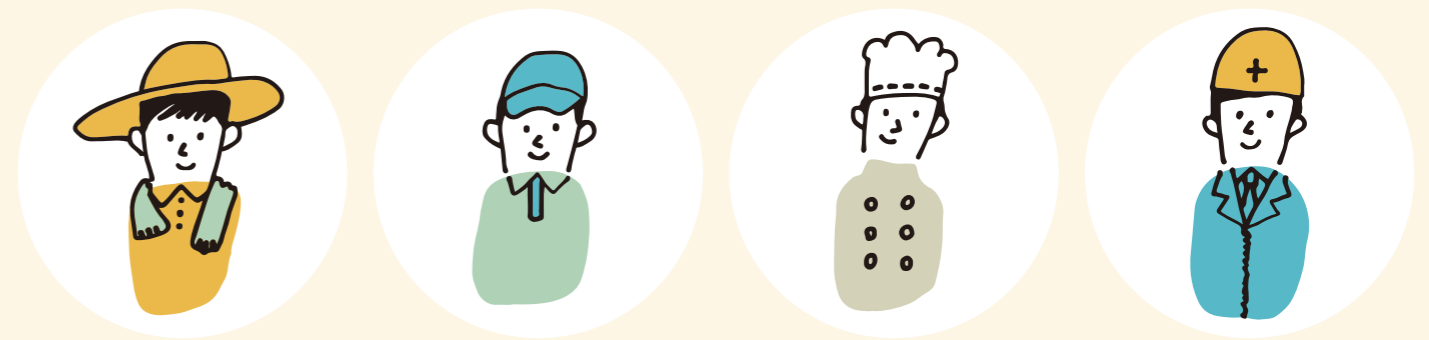
【デザイン】
磯村拓也

【制作チーム】

牧之原みんなの暮らしを学ぶ会の皆さん 戸塚愛琳(静岡県立大学経営情報学部1年・牧之原市出身)

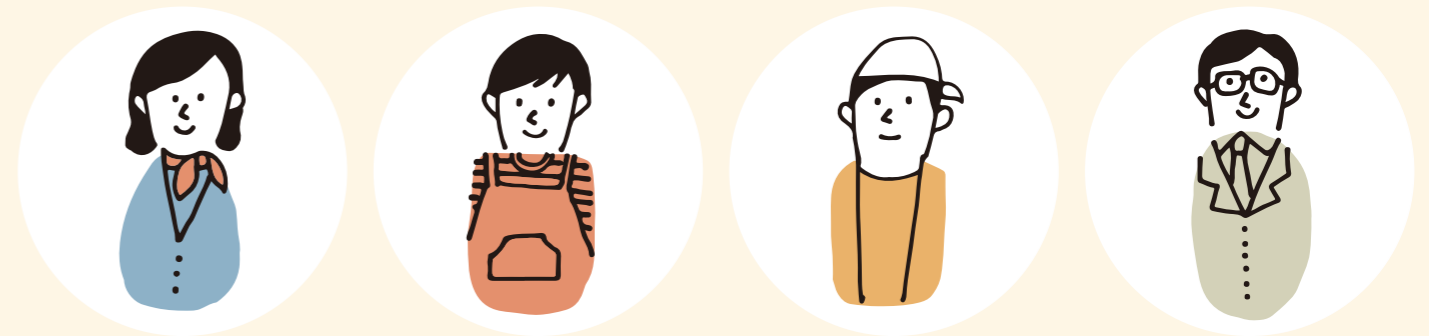
【連絡先】

静岡県立大学国際関係学部津富研究室 tsutomi@u-shizuoka-ken.ac.jp



コロナ禍を乗り越えるための 私たちの知恵

— 牧之原市民の声を集めてみた —



新型コロナウイルス感染症の流行は、私たちの生活に大きな影響を与えました。これまで、牧之原市では、多くの市民が活発に地域での活動を行っていましたが、感染症によって状況が一変し、こうした活動の継続が困難になったり、変化を迫られることになりました。

そこで、この研究では、コロナ禍を乗り越えるための牧之原市民の知恵を明らかにするために、コロナ禍と出会った牧之原市民の声を集め、人々がどう感じたか、どう行動したか、未来に向けてどのような希望をもっているかをまとめました。

ストレス、不安

みんなコロナで何となく
ピリピリしていて、つらい

直接会えない、見られない、
触れられない、ないないづくしで、
私たちの持ち合わせている大切な感覚を
使うことができない。本当につまらない

孤独感が
すごかった…
さみしいな

人に会えなくて、
ストレスが溜まり、
体調が悪くなってしま

心配

みんな一人ぼっちに
なっていないかなあ。
大丈夫かなあ

感染が増えていて、
地域の医療機関が心配。
もっと地域の医療機関を
大切にしよう

コミュニケーション

オンラインでの
コミュニケーションを
学んでやってみたい

ネットを
使えない人への
配慮も大事だな

変わっていきこう

この状況下だからこそ
みんなで変わるチャンス!

地域コミュニティの
重要性に気付いた。
地域のつながりで
できることを
ゆるくやっていきたい

自分たちの暮らしを
みんなで考えていきたい

付和雷同

自分の考えで
判断できなくて、
どうしても誰かの
指示待ちに
なってしまう

トイレトーパーやマスク、
消毒液を探して
右往左往してしまった。反省してます

外出しよう

気持ちが
ふさがないように、
感染対策をしっかりして、
外で遊ぼう

外出を控えるんじゃなくて、
気を付けて外出しよう

地域のお店に、
お弁当を買いに
行こう!

未来への不安、希望

子どもたちが、
これから先も夢を持って
生きて行って欲しい!

学校が休みになったり、
これから、子どもたちは
どうなっていくんだろう

医療関係者やがんばっている 皆さんありがとう

医療関係者の皆さん、
本当にありがとうございます

コロナ禍のなか、
がんばっている皆さんがたくさんいて
元気をもらっています。感謝しています

差別、誹謗中傷

自分がコロナに感染するより
周りの反応の方が怖いよ

感染された方やその家族の、
痛み・悲しみ・苦しみを
押し量れる、大人として
言動をしてほしい

人間は怖い。
誹謗中傷はショック。
思いやりは忘れたくない

困っている人がいる

地域に困っている人が
こんなにいるんだ。
もっと気付けるように
になりたい

こういうときは、
女性や非正規の人、高齢者、
子ども、ひとり親の人、
交通手段がない人が大変だ

困ったときはお互い様。
みんなで見守っている
牧之原がいいな

情報が欲しい

コロナに関して、
一貫した情報が少なくて困る!

間違った情報に
振り回されないように、
正しい知識を持たないと

感染症に対しての
学びを深めたいから、
学習会を企画します

自然が大事

質素でいいから心豊かに暮らし、
環境や生き物や他の世界に
生きる人々と共存したい

自然に目が向くようになりました。
手つかずだった草取りや畑の仕事に目が行き、
何か忘れていたものに気づきました。
おいしい空気、おいしい水は何より大事です

経済第一主義、
消費文化、
地球温暖化の付けが
来てしまったなあ

田舎っていいよね

魚や貝をとりにいける、
松ぼっくりやどんぐりを拾いにいける、
牧之原のよさをみんなに
知ってもらいたい

田舎は安全。
田舎に住んでいるのは
こういう時に
ありがたい

田舎は畑仕事でできれば、
散歩もできる。
海はきれいで空は広い